

## 平成21年度 第2回山梨県考古博物館協議会議事録

1 日 時 平成22年3月24日(水) 午後1時30分～

2 場 所 考古博物館 研修センター

3 出席者(敬称略)

(委員) 大隅清陽、大森きよ子、齊藤洋子、椎名慎太郎、鈴木郁子、  
谷口一夫、三井久美子、宮崎秀子、湯川邦夫 9名

(事務局) 武井館長、渡辺次長、保坂学芸課長、学芸課員3名、総務課員2名

(教育委員会) 学術文化財課員1名

4 会議次第

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 議事

(4) その他

(5) 閉会

5 会議に付した事案の件名

(1) 平成21年度考古博物館経過事業について

(2) 平成22年度考古博物館予定事業について

(3) その他

6 議事の概要

(委員)

企画展「表門郷物語」は地元甲府市の出土品だったので興味がわいた。このような企画展を今後も予定しているのか。

(事務局)

22年度は旧中道町地域の出土品の展示を予定している。

(委員)

古代の音色コンサートを聴きに、県立博物館や釈迦堂博物館に行った。とても良かった。またこのような企画をして欲しい。

(事務局)

文化庁の補助事業として行った。今後も補助事業が継続されるのであれば、検討していきたい。

(委員)

「私たちの研究室」はよい取り組み。入賞者の作品をみると、考古博物館で教わったことをよく活かしているのがわかる。考古博物館が実施している様々な取り組みの成果だと思う。今後も子供や大人向けにいろいろな企画をして欲しい。

(委員)

協力会について。館ができないことを手伝っている。

(事務局)

ボランティアガイドとして、展示の解説などのサポートもしてもらっている。

(委員)

今回の風土記の丘こどもまつりは、具体的にどのような内容になるのか？

(事務局)

例年、狩猟体験や勾玉作り体験など子どもを対象にした各種体験イベントを行っている。今年度は公園の指定管理者も加わり、より多くのイベントを行う。

(委員)

チラシには、館の企画内容だけでなく周囲の自然環境や花のたよりなども載せて欲しい。

(委員)

甲府駅北口に県内博物館のアンテナショップ的な場が欲しい。

(委員)

第四土曜日「考古博物館の日」が定着すれば面白いが、イベントが少ない気がする。館は甲府市内にあるがアクセスが良くない。何度も繰り返し足を運べる立地ではない。一度きたら、親子が各々、自分のしたいことで時間をつぶせるような多様なメニューがあるとよい。

(事務局)

現在計画している体験教室や講座などで土日はほぼ通年うまっている状況であるが、工夫しながらいろいろ検討していきたい。

(委員)

考古博物館と埋蔵文化財センターが実施している取り組みについて、外部からは区別がつきにくい。問い合わせなどの窓口を一本化すれば、もっと効果が出るのではないか。

(事務局)

埋蔵文化財センターとも協力体制を組んでいる。より連携を深めていきたい。

(委員)

企画はたくさんあっても、十分伝わっていない。浸透していない。  
年度当初に学校向けにオリエンテーションをしたらよい。

(事務局)

先生方に知ってもらうことが、まず一番だと考えている。22年度は教育センターの主催する教員向けの研修の時に、オリエンテーションを行う予定である。

(委員)

年々、学校現場は忙しくなっている。時代もかわり、学校関係者の熱意や対応もかわってきている。若い先生方に興味をもってもらうことが必要ではないか。  
夏休みの課題は、理科実験と読書感想文が2本柱となっている。「わたしたちの研究室」は目につかない。

(事務局)

学校に配られるチラシが多すぎて、全てに目を通してもらうのも難しいと思うので、できるだけ学校に出向くようにしている。今年度は180校ほど訪問した。広報活動には力を入れていきたい。

(委員)

以前、実施していた風土記の丘の周辺を散策するイベントをまた企画して欲しい。

(事務局)

風土記の丘こどもまつりや史跡文化財セミナーの中で予定している。

(委員)

前回、もっと外で館をアピールするよう指摘をしたが、岡島で行われた体験学習は非常に良かった。今後も続けて欲しい。

(事務局)

予算の制約があつて難しいが、無料で使用できる場所を確保するなど努力していきたい。

(委員)

甲府駅前の看板に考古博物館が記載されていない。

(委員)

笛吹市周辺で配られているフリーペーパーには釈迦堂博物館の情報は載っているが、考古博物館は載っていなかった。

(事務局)

地域的なものではないか。考古博物館の情報を掲載しているフリーペーパーも3誌ほどある。

(委員)

いろいろな機会を捉えてPRしてほしい。